※令和４年度以降入学生用

学校番号	３０３

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	明解歴史総合　（帝国書院）						
副教材等	新詳歴史総合　（浜島書店）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

様々な事象について考え、自分なりの意見･考察を書けるようにしっかり授業中はメモを取ること。近現代における世界史及び日本史上の出来事について知り、考察することで今私たちが生活していて耳にする国際問題についての理解を深めてもらいたいと思います。また、普段のニュースに自分から興味を持って、授業内容と関連付けて理解を深めて、自分の人生に役立ててください。そのために定期的に授業内でレポート・発表等を通じて自分の意見を表現してもらいます。

２　学習の到達目標

・文化の多様性や複合性を広く捉え、現代社会における各国の問題を考察させることで、歴史的思考力を養う。
・世界の歴史と日本の歴史とを関連付けながら理解し、国際社会に主体的に生きる人間としての自覚と資質を養う。
・諸資料や地図などを用いて、自身の歴史的事象に関する考えを表現できる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	我が国と世界各国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境や地理的条件と関連付けながら理解し、その知識を身に付けていて、諸資料をもとに自分の考えをまとめられている。	我が国及び世界の歴史の展開から課題を見いだし、国際環境と関連づけて多面的・多角的に考察できる。また、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を見て、その過程や今後の課題や展望を考察し、表現できている。	我が国の歴史及び世界の歴史の動向に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	歴史の扉	・歴史と私たち ・歴史の特質と資料	a: 身の回りの事象と世界の歴史及び日本の歴史が結び付いていることを理解している。 b: 身の回りの事象と世界の歴史及び日本の歴史との結び付きについて考察し、表現している。 c: 中学校までの学習を踏まえて学習に取り組もうとし、授業の内容を自分自身の言葉で書き残して振り返るなどして粘り強く取り組もうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 授業プリント	定期考査 レポート 授業での発表等
	近代化と私たち	・江戸時代の日本と結び付く世界 ・欧米諸国における近代化 ・近代化の進展と国民国家形成	a: 18 世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について、資料を読み取り、理解している。江戸時代の日本が交易を限定して海外の情報を制限したことが平和で安定した社会を存続させ、その中でインフラや学問の発達がみられたことを理解している。 b: 大航海時代から西洋諸国の植民地政策へ至った交易の意義とわが国との関わりについて考察し、みずからの言葉で表現している。 市民革命および産業革命から、諸改革の意義と現代社会との関わりを考察し、みずからの言葉で表現している。 c: 市民革命や産業革命が日本の近代化及び現代社会に与えた影響と課題について、主体的に追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 授業プリント レポート	定期考査 レポート 授業での発表等

※令和４年度以降入学生用

２学期	近代化と私たち	・アジア諸国の動揺と日本の開国 ・近代化が進む日本と東アジア	a: イスラーム圏において、ヨーロッパ諸国の進出に対してイスラーム諸国がどのような対応を取ったのか、東アジア諸国の中で日本の開国政策との違いを考察し、この差異が歴史的にどのような意義を有するかを理解している。 明治維新の諸改革によって急速に近代化を進めたこと、日清・日露戦争における日本の勝利が世界史上大きな意義を持つことを理解している。 b:世界史において、日本の開国政策が正しかったのか否かを自身の考えを理論的に説明できる。 明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について、資料を読み取り、理解している。 日清・日露戦争後の日本の動向、敗戦国である中国、ロシアの改革について考察し、表現している。 c: 明治維新やアジア諸国の変容が現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 授業プリント レポート 資料作成等	定期考査 レポート 授業での発表等

※令和４年度以降入学生用

	国際秩序の変化や大衆化と私たち	・国際秩序の変化や大衆化への問い ・第一次世界大戦と日本の対応 ・国際協調と大衆社会の広がり	a: 国際関係の視点を軸に、バルカン半島をめぐる各国の対立構図と第一次世界大戦勃発からの戦争体制の変化と終戦までの経緯、参戦した各国の社会の変化について、資料を読み取り、理解している。 大戦後のヴェルサイユ体制、ワシントン体制の各国の捉え方の違いについて着目し、国際協調機関である国際連盟の弱点と課題について表現している。 b: 第一次世界大戦の総力戦体制下において、列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地域の人々がそれぞれどのような目的で戦争に協力したのかについて考察し、みずからの言葉で表現している。大戦後、各国で大衆の政治参加が進んだ理由について考察し、表現している。 c: 第一次世界大戦の以前と以降による国際治癒所維持の方法に変化があったこと、勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が, 現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 授業プリント レポート 資料作成等	定期考査 レポート 授業での発表等

※令和４年度以降入学生用

3学期	国際秩序の変化や大衆化と私たち	・日本の行方と第二次世界大戦 ・再出発する世界と日本	a: 世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、恐慌にあえぐ各国と、その大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り理解している。 恐慌に直面した資本主義国の経済対策と、各国でなぜ軍部が政権を握ることになったか、また、資本主義国と一線を画すソ連のスターリン独裁について、どちらの政権も大衆が支持したのはなぜかを考察し、共通する事象を理解している。 冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本及び、世界各国の視点からそれぞれ資料を読み取り、理解している。 b: ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、大衆がなぜ戦争に協力していったのか考察し、みずからの言葉で表現している。 国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際秩序を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかについて考察し、みずからの言葉で表現している。 c: 戦後の日本の占領が現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 授業プリント レポート	定期考査 レポート 授業での発表等

※令和４年度以降入学生用

	グローバル化と私たち	・冷戦で揺れる世界と日本 ・多極化する世界 ・グローバル化のなかの世界と日本	a: 冷戦下の緊張と緩和の経緯と、そのなかでの日本の高度経済成長や、脱植民地化を目指す動きについて、資料を読み取り、理解している。 冷戦下における西側・東側陣営の変化、両陣営以外にも登場した新たな枠組みについて、資料や今までの歴史的事象から規則性を読み取り、理解している。 冷戦終結後、日本の国際的役割と国内の政治情勢が変化したことや、現在の国際秩序がグローバル化の進展のなかで形成されたものであることを理解している。 b: 冷戦下の世界と日本の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、みずからの言葉で表現している。 独立後のアジア・アフリカ諸国の状況を踏まえ、脱植民地化を進めるうえでの問題点を考察し、表現している。 冷戦の終結によって、なぜ地域紛争が勃発したり、地域統合が進展したりしたのかについて考察し、グローバル化の進展について各地域を比較して考察し、その特質や問題点をみずからの言葉で表現している。 c: 冷戦の終結とグローバル化の進展が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 授業プリント レポート	定期考査 レポート 授業での発表等

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度